

三宅晴暉 みやけ はるき 経済評論家。明治二十九年二月四日兵庫県佐用郡久崎村生れ、昭和四十一年九月一日歿（八六―一九六）。本名晴暉。大正八年早稻田大学文学部商科卒。三菱商事を経て東洋経済新報社に入社。のち専務理事となり、昭和十五年退社。戦後日本放送協会理事、東寶取締役、産業経済新聞社論説委員等歴任。二十六年日本エッセイスト・クラブを設け、専務理事に就任。

著書に『日本銀行』（昭和二十八年二月一日文藝春秋新社）、『三菱・住友』（昭和二十八年十一月十五日要書房）、『若い人達に与えたる財界人の意見』（論、昭和二十二年十一月一日潮文社）等。『三宅晴暉の足跡』（昭和四十二年九月一日三宅千里・鴻刊）がある。



三宅晴暉の足跡

